

大阪外国語大学
グリークラブOB合唱団
創部88年記念演奏会

「ベージュ色のコンサート」

賛助出演 大阪男声合唱団



クレオ大阪中央

2014年6月22日(日) 開場:13:00 開演:13:30

【主催】大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団

【後援】咲耶会 (大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

ご挨拶

大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団 名誉顧問
山口 慶四郎(大阪外国語大学名誉教授)

「ベージュ(米寿)色のコンサート」の開催、まことにおめでたく存じあげます。母校の現役グリークラブが残念ながら消滅したと伝え聞き、創部時から関西の名門グリークラブの一つに数えられていたその灯を消してはならじと、大阪、東京それに名古屋を拠点に立ち上げたのが本OB合唱団である。

メンバーの年齢構成からすると、大阪外大グリークラブOB合唱団は、白寿(創部99年)はおろか、茶寿(同108年)、皇寿(同111年)、さらには大還暦(同120年)を迎えての演奏会をも存続させるであろう。そうあることを祈る。自身の青春もグリークラブとともにあった。本日は深く席に腰を掛け、心ゆくまで諸君の美しいハーモニーに耳を傾けられることを至福とする。

重ねて、大阪外国語大学グリークラブOB合唱団に弥栄あれと祈って。

大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団代表 森 滋

本日は、大阪外国語大学グリークラブOB合唱団の「ベージュ色のコンサート」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

大阪外国語学校時代の1926年(大正15年)に誕生した当グリークラブは今年創部88年を迎えました。人間でいえば88歳、米寿の祝いです。私たちOB合唱団はこれを記念して本日の演奏会を企画しました。

「ベージュ色」は米寿の語呂合わせですが、色が発するメッセージは自然体、融和、柔軟といい、特にファッションやインテリアの世界では人の心をなごませるリラックス効果がある人気の定番色だそうです。演奏会の雰囲気もそうありたいと、そのまま名称にいただきました。

ステージは4つです。当グリークラブの先輩で偉大な作曲家、清水脩の男声合唱組曲「アイヌのウポポ」と人気ミュージカル「学生王子」、外大得意のレパートリー「黒人靈歌」、そして多田武彦作曲の男声合唱組曲「富士山」を歌います。

本日は、ふだん大阪、東京、名古屋を拠点に練習を重ねているメンバーを中心に、全国各地から、さらに東南アジア、中国など海外駐在のOBたちも集い、演奏に参加しています。合唱組曲の指揮をしていただく林誠氏はことし3月、長らく勤められた大阪音楽大学を退官され、名誉教授に。引き続きOB合唱団の指揮者としてご指導いただきますが、本日は退任記念演奏会でもあり、力いっぱいの演奏でお祝いさせていただきます。

最後のステージの組曲「富士山」は大阪男声合唱団との合同演奏です。2007年に大阪外国語大学と大阪大学が統合され、OB合唱団双方の交流がはじまって、今回は2回目の合同演奏です。どうぞ、多彩なプログラムを最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

指揮者プロフィール

林 誠

大阪音楽大学卒業、同大学院修了。71年日伊声楽コンコルソ・シエナ大賞、76年大阪文化祭賞、大阪府民劇場賞、音楽クリティック・クラブ賞、79年再び大阪文化祭賞を受賞。81年には東京で創立100周年の為に来日した小沢征爾指揮ボストン交響楽団の第九公演にソリストとして出演。

82年東京、大阪でのリサイタルに対し、芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。関西歌劇団常務理事、日本演奏家連盟会員、大阪音楽大学名誉教授。

1973年以来、大阪外国語大学グリークラブのヴォイストレーナーをお願いしていたこともあり、2001年のOB合唱団(大阪)の設立後、本格的に活動を開始した2003年10月から、指揮者としてお迎えすることになりました。

———— プログラム ————

ステージI 男声合唱組曲 「アイヌのウポポ」

作曲 清水 僕 採譜 近藤 鏡二郎
指揮 林 誠

- I くじら祭り
- II イヨマンテ (熊祭り)
- III ピリカピリカ
- IV 日食月食に祈るうた
- V 恋歌
- VI 輪舞

ステージII The Student Prince 学生王子

作曲 Sigmund Romberg 作詞 Dorothy Donnelly
編曲 北村 協一
指揮 池田 守 ピアノ 新谷 昭一

Golden Days
Drinking Song
Deep in My Heart Dear
Serenade
Student March Song

(休 憩)

ステージIII Negro Spirituals 黒人靈歌

指揮 池田 守

Steal Away
Set down Servant
O My Golden Slippers
Little David, play on yo' harp
Didn't my Lord deliver Daniel ?
Deep River

ステージIV 大阪男声合唱団との合同演奏

男声合唱組曲 「富士山」

作曲 多田 武彦 作詞 草野 心平
指揮 林 誠

- I 作品第壹 (麓には・・)
- II 作品第肆 (川面に・・)
- III 作品第拾陸 (牛久のはての・・)
- IV 作品第拾捌 (まるで紅色の・・)
- V 作品第貳拾壹 (平野すれすれ・・)

曲目解説

ステージ I アイヌのウポポ

この曲は、大阪外大グリークラブの大先輩である清水 僥が昭和 36 年に立教大学のために作曲し、同じ年、同大学によって初演されました。アイヌ民族研究家の近藤鏡二郎の採集したアイヌ民謡から 6 曲を選んで男声合唱したもので、歌詞は全曲、アイヌ語になっています。

アイヌの人々は、自給自足という形で自然と付き合い、この世の森羅万象に神が宿っているというアニミズムを信仰のベースとしておりました。有名なイヨマンテやふくろう祭なども、神様（カムイ）と仲良くしてお互いに助けあって楽しく暮らしていこうという気持ちの表れです。そのような呪術的な行事の際に、集まつた人々は手拍子を打ち鳴らし、踊りを踊りながら、声を出し、その場の神聖なムードを盛り上げたのでした。

これがアイヌの音楽であり、他の民族にも言える普遍的なことですが、宗教的儀式と音楽が結びついたわけです。

そういうことで、この「アイヌのウポポ」も大変、原始的な感じがします。旋律らしい旋律は少なく、囁子言葉やかけ声、動物の鳴き声、そういうものを中心を作られていて、同じことを繰り返し歌っていきます。

和音も 2 度のハモリがよく使われていて強烈な響きがし、叫び声で歌うようなところもあります。

（1987 年、「大阪外大グリークラブアイヌ調査団」の調査・研究資料から）

I くじら祭り

くじらが浜に上がったよ。目の見える人は行ってごらん。

II イヨマンテ（熊祭り）

カムイ（熊の肉体を纏った神）よ、この地が幸福であるように見守ってくれ。私たちはあなたが幸福であるように願っている。いつも私たちのことを見守ってくれ。

III ピリカピリカ

今日はいい天気だ。どなたがきれいか、選んであげよう。

IV 日食・月食に祈るうた

太陽、月の神よ、死んでしまったのか。どうか生き返って、我々の前に姿を現してくれ。

V 恋 歌

倒木の上に腰かけて、小鳥がさえずるのを聞きながら、恋人は今、何をしているのかと考えている。

VI 輪 舞

この曲には意味はなく、すべて動物の鳴き声などを取り入れたはやし言葉でできています。これはイヨマンテや他の祭りなどの時に歌われる熱狂的な歌です。

ステージ II The Student Prince 学生王子

Sigmund Romberg(作曲) と Dorothy Donnelly(脚本 / 作詞) によってドイツの Wilhelm Meyer Foerster の戯曲 Alt Heidelberg をもとに作られたオペレッタ形式のミュージカル。ロマンチックな 19 世紀の学生生活と感傷的な悲恋物語で、ブロードウェイの劇場で 1924 年 12 月に初演され、608 回もロングランを続けた Romberg の代表作となった。

舞台は 1860 年代、ドイツザクセン地方のカールスブルグ公国のかー・フランツ王子がお抱え教師エンゲル博士とハイデルベルグに遊学するところから始まる。ハイデルベルグは博士が学生時代に学んだ地。学生たちの「ドイツ学生歌 = Gaudemus igitur」の歌声を聞き、若いころを懐かしんで「輝かしき日々よ」と歌い上げます (Golden Days)

王子は学生隊「ザクソン団」の一員となり、友人たちと毎晩のように酒場に繰り出し青春を謳歌します。 (Drinking Song & Student March Song)

学生下宿の娘のケティーと知り合った王子は次第に惹かれ、愛しあうようになります。ある夜、散歩していた王子は窓辺にケティーの姿を見つけ、切々と心のうちを歌い上げます。 (Serenade)

青春を謳歌していた王子のもとに国王が重病との知らせが届き、王子は王位を継いでマーガレット王女との婚約も決まりますが、大学時代の仲間からハイデルベルグの様子を聞いて楽しい日々を思い出した王子は再訪を思い立ち、ケティーとの再会も果たします。二人は愛する気持ちに変わりはないが、お互いの進むべき道は異なるため、会えるのはこれが最後となるが、いつまでもこの気持を忘れずにいようと誓い、舞台の幕は閉じます。(Deep in my Heart Dear)

ステージIII Negro Spirituals 黒人靈歌

17~19世紀、新大陸の開拓の為に、多くの黒人達がアフリカ各地から奴隸としてアメリカに強制移住させられました。彼らの生活は、救いのない惨めなものでしたが、虐げられた奴隸制度の中で、新しく覚えた讃美歌や聖書に勇気づけられ、ひたすら神の救いを求めて、天国へ行けることを願い、そうすることによって現実の苦しみから逃れようとしたのです。

彼らによって歌われる祈りの歌、魂の歌が黒人靈歌なのです。リズムは彼ら独特のものであるが、歌の内容には自然に対する畏れから来た祈りに、白人たちから教えられたキリスト教信仰が影響して、信仰生活を歌ったものが多いようです。もちろん伴奏楽器もなく、練習をしたわけでもないので、口移しに伝えられ、1850年ごろから広く人々に知られるようになり、1880年ごろに初めて採譜されたものと思われ、大体450~500曲が現在黒人靈歌として知られています。この内から、本日は6曲を選んでみました。

* Steal Away

こっそり、こっそり、こっそりとイエスのもとに逃れよう。こっそり、こっそり、こっそりと故郷に逃げよう。ここにはもう長くいられない・・・

* Set Down Servant

座りなさい、召使よ。いいえ、座ってなんかいられません。心が幸せに満ち溢れて、とても座ってなんかいられません・・・

* O My Golden Slippers

素敵な金色のスリッパは天国への階段を昇る日が来るまで履かずにおこう。私のとても好きな燕尾服も、その朝馬車に乗る時に初めて着よう。

* Little David play on yo' harp

ダビデよ、豎琴を搔き鳴らし、祈り続けよ。天なる神はお前に力を授けてくださるのだ。そして民を苦しめる巨人ゴリアテを倒すのだ。

* Didn't my Lord deliver Daniel ?

主はダニエルを獅子の檻からお救い下さった。だからかように信仰深い貴方も私も救われないことがあろうか。

* Deep River

おお主よ、私はこの深い河を超えてあの懐かしい土地に行きたい。ヨルダン河の彼方にある私の家に帰りたい・・・

ステージIV 富士山

男声合唱組曲の定番として多くの合唱団に取り上げられております「富士山」は、「蛙」の詩人として広く知られている草野心平の連作詩「富士山」の中の5篇に多田武彦が作曲したものです。草野心平は、富士山の詩人とも言われるよう、10数年来富士山の詩を幾篇も書き続けてきましたが、彼の「富士山」は、決して富士山そのものの平面的な美しさのみを歌っているのではなく、第3曲/第4曲/第5曲の詩を読むと、天を背景として存在する富士山の美しさ、大きさが目に浮かび、胸に染み透るような感じが迫ってきます。

存在を超えた無限なものとして、民族の精神的支柱としての富士山を歌っているのです。

多田武彦は、彼にとって「柳河風俗詩」に続く二番目の作品となるこの曲において、氏独特の美しい日本的な旋律、壮大な曲想と比較的単純な和声により、見事にこの詩の絵画的美しさと、象徴としての偉大な富士山を表現しているのです。

【大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団】

グリークラブ誕生は大正 15 年と古く、部員の減少から廃部となってしまった 1998 年までの長きにわたり、多くのメンバーが合唱に集い、学生生活をエンジョイしてきました。その伝統の灯を消してはならじと、先ず 1998 年に東京で、更に 2001 年には大阪でも歌うことが好きな OB 数名が集まり OB 合唱団が結成されました。当初は各パートが 2、3 名でスタートしましたが、現在の大阪/東京の団員数は各々 20 名を超え、更に名古屋でも 5 名が同様の活動を続けています。最近のステージとしては 2011 年 11 月に神戸新聞松方ホールにて「創部 85 周年記念演奏会」を持ちました。その演奏会では、我々の大先輩でもある清水 倏の生誕 100 周年記念として、「月光とピエロ」、「三つの俗歌」、「日本民謡」などを海外からの参加者も含め総勢 60 数名で高らかに歌い上げました。当 OB 合唱団の持ち歌は、何と言っても清水 倏の組曲と創部以来歌い続けてきた黒人靈歌が中心です。更に外国語大学の特性を活かし、世界の民謡や愛唱歌も得意分野としております。

大阪外国語大学は 2007 年の大阪大学との統合により、現在はなくなります。が、グリークラブ OB 合唱団は、若手 OB メンバーの参加を期待しつつ、創部 90 周年、更には 100 周年記念演奏会を目指して日頃の練習に励んでいます。

【大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団出演メンバー】

1st Tenor

石田 康雄 伊東 昭廣 西村 信勝 柳楽 行雄 佐藤 謙司 小竹 正幸 田中 充
池田 守 五十嵐 強 内野 秀樹 北村 照夫 永山 隆 保川 一治 坂居 孝二
戸田 貴之

2nd Tenor

若林 允 紙谷 敬治 西沢 穀彦 赤城 一宇 山本 勝昭 鈴木 惟司
柳沢長四郎 山本 修司 竹尾 彰 加藤 直樹 小林 卓郎 稲積 和典

Baritone

野田 大祐 河盛 龍三 直場 徳宥 大西 昌三 中村 邦雄 小笠原 肇
新出 武雄 山野 善正 西川 哲朗 岸田 勝昭 浜崎 慎吾 鶴飼 茂
松岡 一仁 河島 靖夫 楠本 隆志 岸本 保

Bass

赤坂 一郎 佐藤 文隆 村主 寧民 後藤 勇治 森 滋 梶江 靖史 大井 耐三
真鍋 一史 南 雄次 樽井 一仁 上崎 雅也 新谷 昭一 榊原 昭裕

【大阪男声合唱団】

大阪男声合唱団は、1954 年に大阪大学男声合唱団の OB 合唱団として発足しました。1982 年から関西の 4 大学（大阪大学、大阪市立大学、京都大学、神戸大学）と東京大学の OB 男声合唱団による「五つの男声合唱の集い」（通称 ANCOR の会）に毎年参加してきました。2001 年に大阪で第 1 回定期演奏会を開催し、その後は毎年 ANCOR の会と定期演奏会を中心に活動しています。定期演奏会の発足に合わせて、東京でも関東地区の OB で東京支部合唱団を結成し、大阪と同じ曲を練習して定期演奏会に参加してきました。2007 年から 5 年間は東京でも定期演奏会と同じプログラムで演奏会を開催し、2012 年からは大阪と東京で 1 年ごとに交互に定期演奏会を開く形を取っています。今年は 8 月に大阪で第 14 回の定期演奏会を開催します。

2007 年に大阪外国語大学と大阪大学が統合したことにより、それぞれの OB 合唱団も提携を図ってゆくことにして、2012 年の大阪男声合唱団の定期演奏会で初めて合同演奏を実現し、今回がその合同演奏の 2 回目になります。

【大阪男声合唱団出演メンバー】

1st Tenor

名迫 行康 辻 輝夫 上田 勝己 高山 裕二 内田 裕樹

2nd Tenor

子安 一男 田村 坦之 細谷 正純 藤本 好司 富田 義人 詠田 英夫
江守 茂和 久米 勝彦

Baritone

近藤 育 田口 孝人 榊田 征也 片桐 知之 豊原 力 橋本 達弥 山田 雅朗

Bass

大島 恵介 中野 洋介 服部 道彦 三瀬 高司 今村 陽一 江村 和朗
前川 治治 佐々木 泰介

「ベージュ色のコンサート」アンケート

本日は大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団創部 88年記念演奏会「ベージュ色のコンサート」にご来聴くださいまして、誠にありがとうございます。
お手数ではございますが、本日の演奏会につきまして、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

♪本日の演奏会をどのようにしてお知りになりましたか？

1. 出演者より 2. 知人より 3. チラシを見て 4. 新聞等より
5. 当合唱団 HP 6. クレオ大阪中央より 7. その他 ()

♪各ステージの皆様の評価はいかがでしたでしょうか？ (評価は 5 段階)

ステージ I. (アイヌのウポポ)

- (1. 2. 3. 4. 5.)

ステージ II. (学生王子)

- (1. 2. 3. 4. 5.)

ステージ III. (黒人靈歌)

- (1. 2. 3. 4. 5.)

ステージ IV. (富士山)

- (1. 2. 3. 4. 5.)

お差支えなければ、ご記入ください。

お名前： _____ 年齢 () 男・女

ご住所： 〒 _____

アンケートはお帰りの際に、受付にお渡しください。
ご協力ありがとうございました。

故郷



作詞 高野辰之

作曲 岡野貞一

1. 兎追ひし かの山
小鮎釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき ふるさと
2. 如何にいます 父母
恙なしや 友がき
雨に風に つけても
思い出づる ふるさと
3. 志を はたして
いつの日にか 帰らん
山は青き ふるさと
水は清き ふるさと